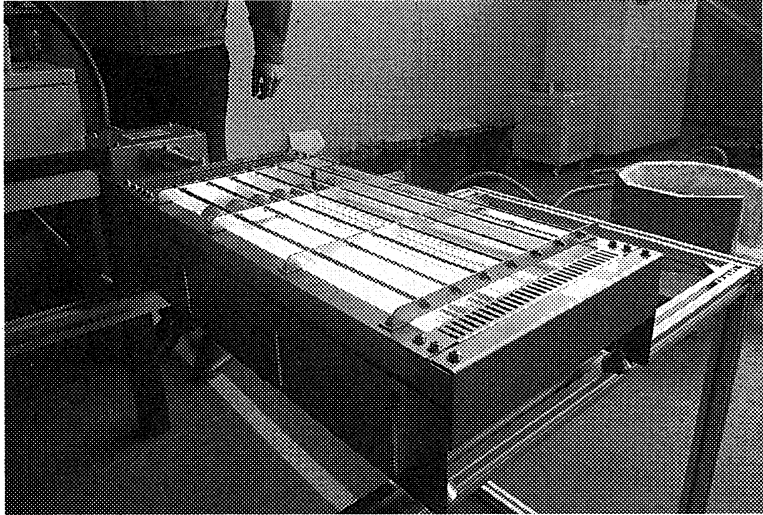


高出力赤外線ヒーター方式

金型加熱器を本格展開

コストはガスの3分の1

各種ヒーターの設計製造を手掛けるメトロ電気工業(本社安城市横山町、川合誠治社長、電話0566・75・8811)は、高出力赤外線ヒーターによる金型加熱器の本格展開に着手した。同装置は、鑄造に欠かせない金型の予熱工程を、コストベースで従来のガスバーナー方式の3分の1程度に抑制が可能。併せてガス使用に伴う危険性の排除や金型の寿命延長も実現する。約1年間、評価試験を兼ねて導入したススキ相良工場(静岡県)のエンジン鑄造部品ラインで十分な効果を得られたことから、自動車業界を中心にPRや試験導入を加速する。



高出力赤外線ヒーター式金型加熱器

同装置は、カーボン薄板(幅(ふく)射熱を狭い範囲に照射するため「熱効率」はほぼ100%)、(川合社長)で、ガスに比べエネルギー使用量を58%(カロリーベース)、総作業時間を32%削減することが可能。ガス方式からの切り替えに必要な設備投資は「1年未満で回収できる」と(川合社長)という。また、鑄造

早い温度管理が難しく、使用する金型を換えるたびに、良品条件をクリアしているかどうかを調べる「捨て打ち」が欠かせなかった。時間、手間の大きなロスの原因となっていたが、電熱による加熱では温度調整の必要がなく、歩留まりの向上にも大きく寄与する。2月11、12の両日に安城

三河懇話会が新年賀詞交歓会開く

日本公庫岡崎

【岡崎】日本政策金融公庫岡崎支店中小企業事業の三河地域の取引先で組織する三河懇話会(代表幹事小野喜明トヨテック社長、会員数110社)は26日、



岡崎市康生町の岡崎ニューグランドホテルで会員、来

市体育館アリーナで開かれる「安城ものづくりコンベンション2016」に出展、アピールする。同社は1月19日、この加熱器の省エネ事例に対し、27年度省エネ大賞(省エネルギーセンター主催)の「資源エネルギー庁長官賞」をススキ、中部電力と合同で受賞している。

新城市は26日、浜松市のオークラクトシティホテル浜松で「平成27年度新城市企業誘致説明会」を開催。浜松市とその周辺地域や愛知県内の企業関係者ら約100人が参加した。新城市をルートに含む新東名高速道路の全線開通を控えていることもあり、参加者は穂積亮次市長らの説明に高い関心を寄せていた。冒頭、穂積市長が同市の概要を紹介し、市内の企業用地について説明した。現在、愛知県企

新城市

浜松で企業誘致説明会



新城市の立地環境を説明する穂積市長

業庁が総面の「新城南」している。力所目となる。同市は、置や雇用促進業に対する占けている。2018年開発公社がターチェン地の分譲を物流業の准

新東名開通控え利便性